

Ⅲ. 4つの柱について

わかる・できる・いかす

確かな学力の保障

児童生徒一人ひとりに確かな学力を保障するため、諸調査や日常の様子からとらえた実態をもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに努める。

指導の重点

(1) 「わかる・できる」「いかす」子どもを主語にした授業づくりの推進

～奥州スタンダード（改訂版）を基本として～

- ア 必然性のある学習課題の設定と整合性のあるまとめの位置づけ
- イ 対話を通して考えを広げたり深めたりする活動の充実
- ウ 学びや自己の変容を自覚し、確かな定着につながる振り返りの設定

(2) 児童生徒の実態に応じた授業改善

- ア 「確かな学力育成プラン」の全職員による共通理解（5月・随時）及び検証改善サイクルによる取組の推進
- イ 諸調査の分析結果や児童生徒のつまずきに着目した学習指導の工夫・改善

(3) 学びを支える土台作り

- ア 教科等横断的な取組を行うためのカリキュラム・マネジメント
- イ 系統性と連続性を意識した小中連携・高校との円滑な接続
- ウ 授業と連動した家庭学習の取組と主体的・計画的に取り組む学習習慣の確立

指標

(1) 「授業がわかる」割合 積極肯定 【小】 50% 【中】 35%

(※県学調の児童生徒質問紙調査による) (R6 [小] 44.0% [中] 33.0%)

(2) 標準学力検査（CRT）において、全国指標を100とした対比

【小6】 105 【中2】 100

(R6 [小6] 100.5 [中2] 90.0)

関連事業

- ・ 標準学力検査の実施（CRT）
- ・ 教育研究発表会
- ・ 授業改善推進研究会
- ・ 授業力アップ研修会
- ・ 指導主事及び学びと心の指導員による学校訪問
- ・ 学校公開（胆沢第一小学校、衣川小学校、衣川中学校）
- ・ 授業訪問（姉体小学校、稲瀬小学校、水沢中学校）
- ・ 小集団指導対応非常勤講師の配置
- ・ 中学校英検受験の検定料助成事業（中学2年生に限り、年1回の受験について助成）

きづく・たがやす ～居場所づくり・絆づくり～

不登校対策の充実・いじめの防止

学校の教育活動全体を通じて、他者との人間関係の中で、お互いの良さに気づき、それを受け入れながらともに支え合っていける関係を築くとともに、児童生徒を支援する体制の整備と、学校と関係機関が連携・協力して支援を行う体制を充実させることで、「安心・安全な学校づくり」に努める。

指導の重点

(1) 望ましい人間関係の醸成

- ア 一人ひとりに自己存在感や安心感のある集団づくり
- イ 情報モラル教育の充実
- ウ 異年齢集団による活動、学区内交流など、多様なふれあいの場の設定

(2) 不登校児童生徒への支援の充実

- ア 学びの場・居場所づくり
校内教育支援センターやフロンティア奥州との連携
- イ 相談員やスクールカウンセラー等との連携による組織的な対応
情報共有と迅速かつ丁寧な対応を大切にした校内の連携
自立支援を図るために関係機関との連携
児童生徒・保護者に寄り添った定期的・継続的な支援の充実
連絡カード等を活用した、小中高の連携
- ウ Q-Uや心とからだの健康観察等、諸調査を活用した生徒指導の充実

不登校対応の
3つのポイント

未然防止
初期対応
自立支援

(3) 「学校いじめ防止基本方針」に基づく組織的な取組の徹底

- ア いじめ問題に係る校内研修等の実施
- イ 「早期発見」「早期対応」のための共通理解と職員間連携
- ウ 学校いじめ防止対策委員会によるいじめ解消に向けた適切な対応

指標

(1) 「学校に行くのは楽しいと思いますか」割合

(県学調の児童生徒質問紙)

積極肯定 [小] 49% [中] 53%

(R6 [小] 41% [中] 51%)

(2) 不登校児童生徒の出現率

[小] 1.01% [中] 5.40%

(3) 認知したいじめの解消率

解消率 [小] 91% [中] 94%

(奥州市いじめ調査Ⅲ期までに認知したいじめがⅣ期調査までに解消となったもの)

関連事業

- ・ いじめ問題・不登校等対策実行委員会
- ・ フロンティア奥州
- ・ 児童生徒支援相談員研修会
- ・ 学びと心の指導員による訪問相談
- ・ 児童生徒支援相談員の配置
- ・ Q-U調査の実施（中学校）
- ・ 生徒指導研究推進協議会

つなげる・ひろげる

郷土への誇りや愛着の醸成

ふるさと学習や復興教育、キャリア教育等の推進を通して児童生徒の学びをつなぎ、地域への誇りや愛着をもち、地域のためにできることを主体的に考え、奥州の産業や地域を支える人材、奥州と岩手・世界をつなぐ人材の育成を目指す。

指導の重点

(1) 「郷土愛」醸成に向けた教育活動の展開

- ア 郷土や地域に視点を当てた探究的な学びの実践・充実
- イ 地域との交流活動等を通じた特色ある教育活動の展開
- ウ 令和8年度の奥州市「ふるさと学習」本格実施に向けた、様々な教育活動への位置付け

(2) 「いわての復興教育」の推進

- ア 「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つの教育的価値に基づく授業実践
- イ 地域と連携した防災教育の推進

(3) 小・中・高連携によるキャリア教育の推進

- ア 特別活動を要とする教育活動全体での推進
- イ 「キャリア・パスポート」の活用
- ウ 各教科等の特質に応じた、体験を伴う学習活動の充実

「郷土愛」とは

奥州市を深く理解し、親しみを感じ、誇りをもつとともに、「奥州市のよさを人に伝える」「将来、奥州で働きたい」など、奥州市を心から思う気持ち

指標

(1) 「自分の住む地域には、良いところがあると思いますか。」(積極肯定)割合

【小】 71% 【中】 54%

(※県学調の児童生徒質問紙調査による)

(R6 市 [小] 65% [中] 52%)

(R6 県 [小] 71% [中] 54%)

(2) 「あなたは将来の夢や目標をもっていますか。」(積極肯定)割合

【小】 65% 【中】 42%

(※県学調の児童生徒質問紙調査による)

(R6 市 [小] 59% [中] 39%)

(R6 県 [小] 65% [中] 42%)

関連事業

- ・ ふるさと学習テキスト編集委員会
- ・ キャリア・パスポート(奥州版)
- ・ 奥州を知る研修会

ささえる・のばす～共に学び、共に育つ教育の推進～

特別支援教育の充実

特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を図り、児童生徒一人ひとりの特性やニーズに基づいた計画的・継続的・組織的な支援を行う。すべての子どもが心豊かに生活できるよう、共に学び、共に育つ教育を推進し、個々の生きる力や可能性の伸長に努める。

指導の重点

(1) 計画的・継続的な支援

- ア 一人ひとりに応じた適切な教育課程の編成及び合理的配慮や学びの場の継続した検討・調整
- イ 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用
- ウ 異校種間の確実な引継ぎ(「引継ぎシート」「ばれっと」の活用)

(2) 教育的ニーズに応じた組織的な支援

- ア 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制(情報共有、役割分担)の整備・充実
- イ 児童生徒と保護者に寄り添った教育相談
- ウ 関係機関との連携による支援の充実

(3) 特別支援教育に対する理解の推進

- ア 校内研修の充実及び児童生徒を中心とした学級経営、授業づくり
- イ 『就学支援等の手引き』の活用
- ウ 交流及び共同学習の充実

指標

(1) 特別に支援が必要な児童生徒の個別の指導計画の作成

① 特別支援学級在籍または正式な通級あり	100	%
② 通常学級在籍で通級なし	95	%
(R6指標に関する調査 ①100% ②87%)		

(2) 引継ぎシートを進学先へ引き継いでいる児童生徒の割合

100	%
(R6指標に関する調査 100%)	

関連事業

- ・就学支援委員会及び就学支援専門委員会議
- ・特別支援関係研修会
(特別支援教育支援員研修会、特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援教育研修会)
- ・特別支援教育支援員の配置